

石丁場をさがす！

梶原 慎司(高松市埋蔵文化財センター)

1. 国・県・町指定の大坂城石垣石丁場跡の現況

- ①面的に広く石材が分布し、丁場の範囲が明らかになっている丁場跡
 - 例) 天狗岩丁場、八人石丁場 (国指定史跡)
 - ②点的に石材の分布を把握し、丁場の範囲が明らかになっていない丁場跡
 - 例) 小瀬原丁場 (県指定史跡)、東谷丁場 (町指定史跡)
- ②の丁場跡について、分布範囲を把握することが目的

2. 小瀬原丁場跡の調査

矢穴型式の特徴 (森岡・藤川 2008) を参考に、Aタイプの矢穴や矢穴痕、刻印を探す

【調査方法】

- ① G P S を持参して、山の中を歩く (踏査)
- ② 空中ドローンによる調査
 - Q. もっと簡単に見つける方法はないの？？
 - A. 踏査が最も確実かつ近道
 - 例) 「大搜索ドキュメント！屋久島 “伝説の超巨大杉”」
 - 「搜索4年！屋久島 “伝説の超巨大杉” 完全版」

【調査の成果】

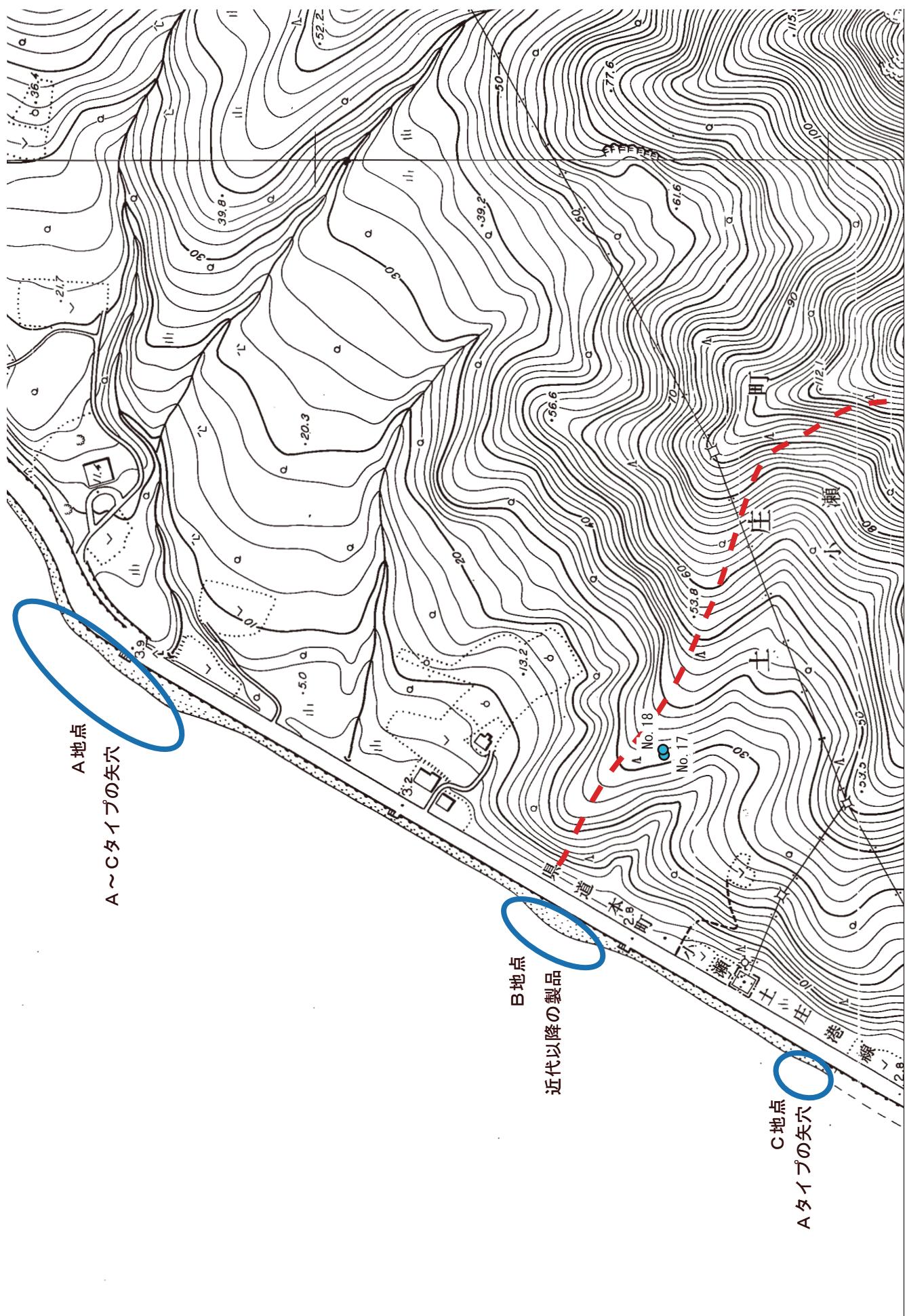
- ① これまで明らかになっていた範囲 (No. 1~3) よりも分布が広がることがわかった
- ② 新たな刻印の発見 (特に尾根筋)
- ③ 近現代の丁場跡の発見
 - 古い丁場跡の場所に新しい丁場が設定されるため、あつたはずの古い丁場跡がなくなっている可能性がある

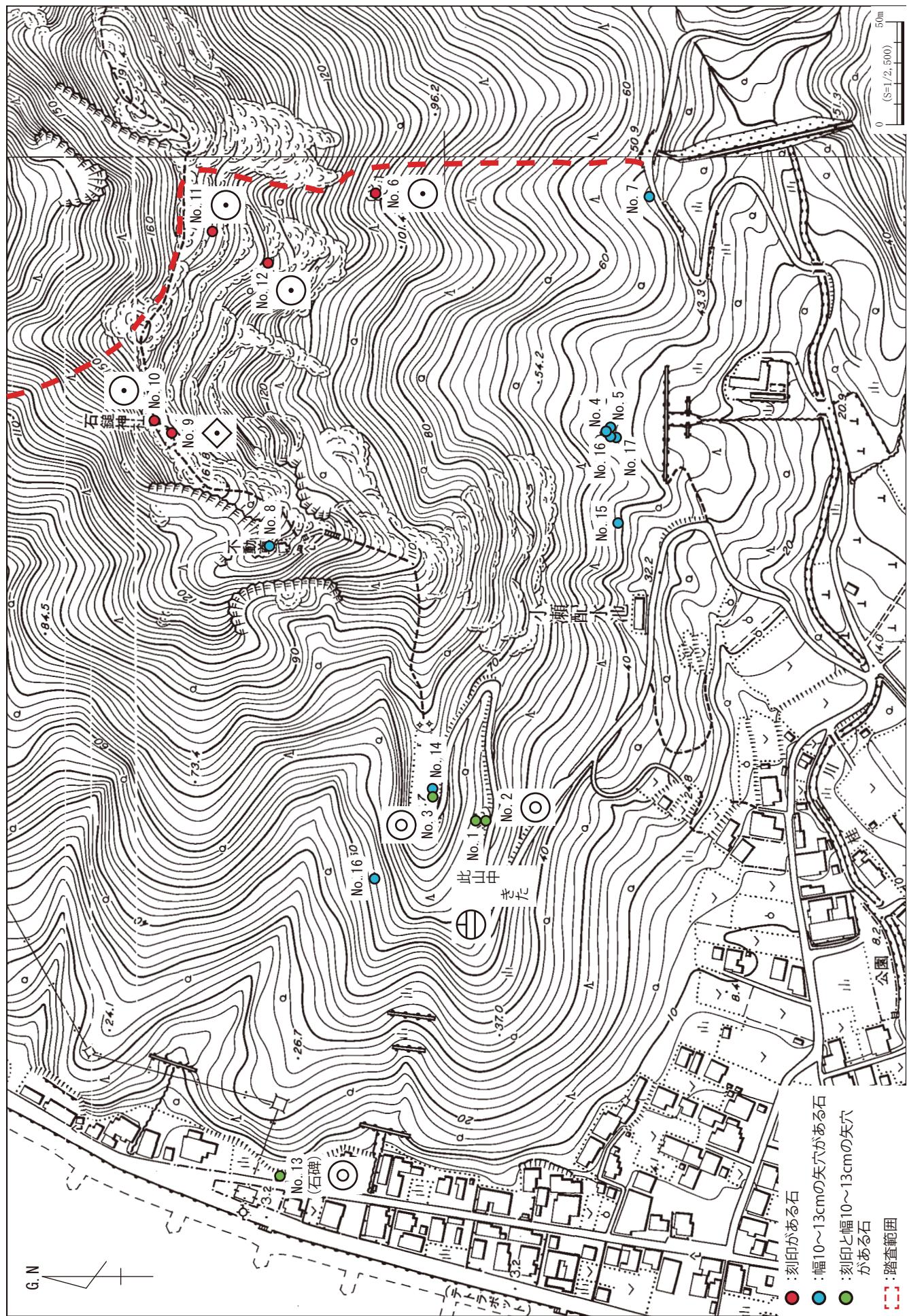
3. 今後の課題

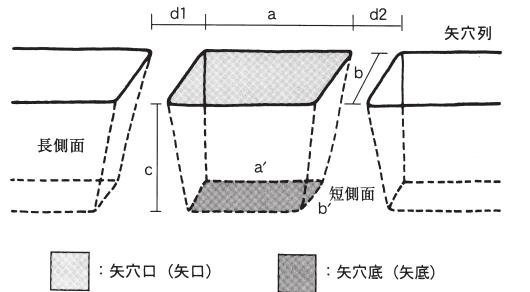
- ・ほかの加藤家丁場跡・藤堂家丁場跡の石丁場跡の分布範囲を明らかにする
- ・どのような場所を丁場とするのか、丁場設定の基準の有無
- ・丁場と搬出道の関係

【参照文献】

- 森岡秀人・藤川祐作 2008 「矢穴の型式学」『古代学研究』第 180 号
芦屋市教育委員会編 2005 『岩ヶ平石切丁場跡』芦屋市文化財調査報告第 60 集, 芦屋市教育委員会







■ : 矢穴口 (矢口) ■ : 矢穴底 (矢底)

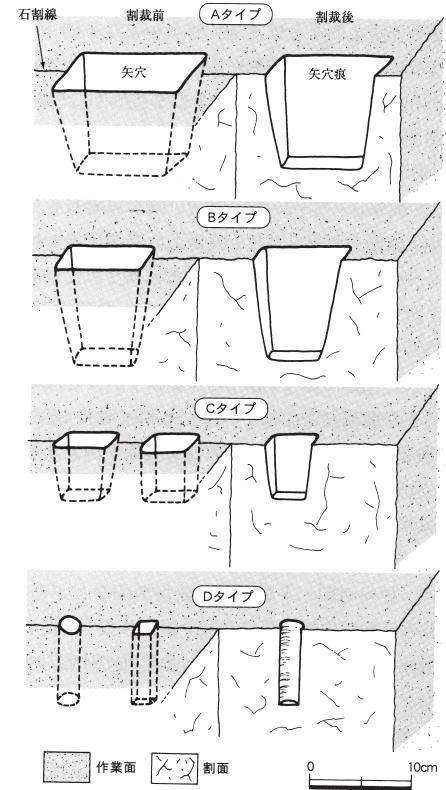
- a. 矢穴口長辺
b. 矢穴口短辺
c. 矢穴口から矢穴底までの深さ
d. 矢穴の間隔 (ピッチ)

※ 矢穴の基本形態は、第38図の Aタイプをモデルにしている。なお、a'・b'の矢穴底の法量は測っていない。

矢穴各部の名称と法量測定基準
(森岡・坂田編 2005)

- Aタイプ…元和・寛永期に広く普及した城郭石垣系の矢穴型式。
矢穴口長辺8~12cm、矢穴口短辺5cm前後、深さ6~10cm
が一般的。
- Bタイプ…矢穴口長・短辺の法量はAタイプとCタイプの中間的な様相を示す。
- Cタイプ…近世中頃以降、現代に至るまでみられる矢穴型式。
矢穴口長辺6cm未満、矢穴口短辺4~5cm、深さ6cm程度のものが多い。
- Dタイプ…近現代の小割りに用いられた矢穴。
平面は円形・方形と多様で機械によるものも含める。

矢穴型式の特徴
(森岡・藤川2008)



※ 矢穴の間隔 (d寸法) は任意であるが、基本的にDタイプに下がる程間隔比率が広くなり、同一ライン上で矢穴数 (穿孔率) は減少する。

矢穴の基本型式分類模式図
(森岡・坂田編 2005)



大搜索ドキュメント！ 屋久島“伝説の超巨大杉”

シリーズ 大搜索ドキュメント！ 屋久島“伝説の超巨大杉”

★ お気に入りに登録 シェアする [1]

世界遺産・屋久島の象徴といえば樹齢2千年を超える縄文杉。だが、さらなる未発見の杉が存在するという「超巨大杉伝説」がひそかに語り継がれている。取材班は、最新科学を駆使し大搜索に挑んだ。まずは空からレーザーを発射。森をスキヤンし、巨大杉のありを示す「宝の地図」を完成させた。続いて地元山岳ガイドと搜索隊を結成。島・最奥部の秘境へと分け入っていく。次々出現する巨大杉。最後には驚くべき巨大杉が待っていた！

振り返り手

2017年8月15日放送

(C)NHK

「大搜索ドキュメント！ 屋久島 “伝説の超巨大杉”」

「搜索4年！ 屋久島 “伝説の超巨大杉” 完全版」

(NHK オンデマンド, <https://www.nhk-on-demand.jp/goods/G2017081376SA000/index.html?capid=TV60>)